

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ポール・ヴァレリー「若きパルク」を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ポール・ヴァレリー（1871-1945）の代表作にして最重要詩篇である「若きパルク」（1917）を精読する。マラルメの愛弟子として若くして優れた詩篇を発表していたヴァレリーは、「レオナルド・ダ・ヴィンチの方法序説」（1895）や「テスト氏との一夜」（1896）などの作品を発表した後、文学への深い懐疑から作品の発表をやめ沈黙期に入っており、1894年以来書き始めた思索ノート「カイエ」だけが彼のエクリチュールの実践の場であった。しかし、青年期の詩篇を詩集にまとめるための改訂作業がきっかけとして、文学への訣別として書き始めた詩篇は当初の予想を裏切って512行の長篇詩篇「若きパルク」となる。4年以上にわたるその執筆過程において、ヴァレリーは文学に対するそれまでの抽象的思索を実際の詩作体験と結びつけ、第一次大戦後に華々しく展開される批評テキストの基礎となる省察を行うことにもなった。「若きパルク」を書かなければヴァレリーはヴァレリーにならなかつたと言っても過言ではない。</p> <p>本講義では、このように重要な意義をもつ「若きパルク」を参加者による輪読形式で精読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。 ・ 複雑な構文、豊富な語彙をもつ文学作品をある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。 ・ 文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 イントロダクション：ポール・ヴァレリー、人と作品。 第3回～第14回 「若きパルク」：各担当者による発表と原文精読。 第15回 まとめ。</p>											
【履修要件】											
フランス語文法の概要を習得していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点50%、期末試験50%											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

必ず予習をして授業に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。